

箕輪城跡(高崎市)

築城年代:永正元年(1505年)、築城者:長野業尚

ここは「搦手口」にある史跡箕輪城跡駐車場/前方の木々があるエリアが城跡



国指定史跡（昭和 62 年 12 月 17 日）
日本百名城（平成 17 年 11 月 10 日選定）

箕輪城跡



北側から見た箕輪城跡前景



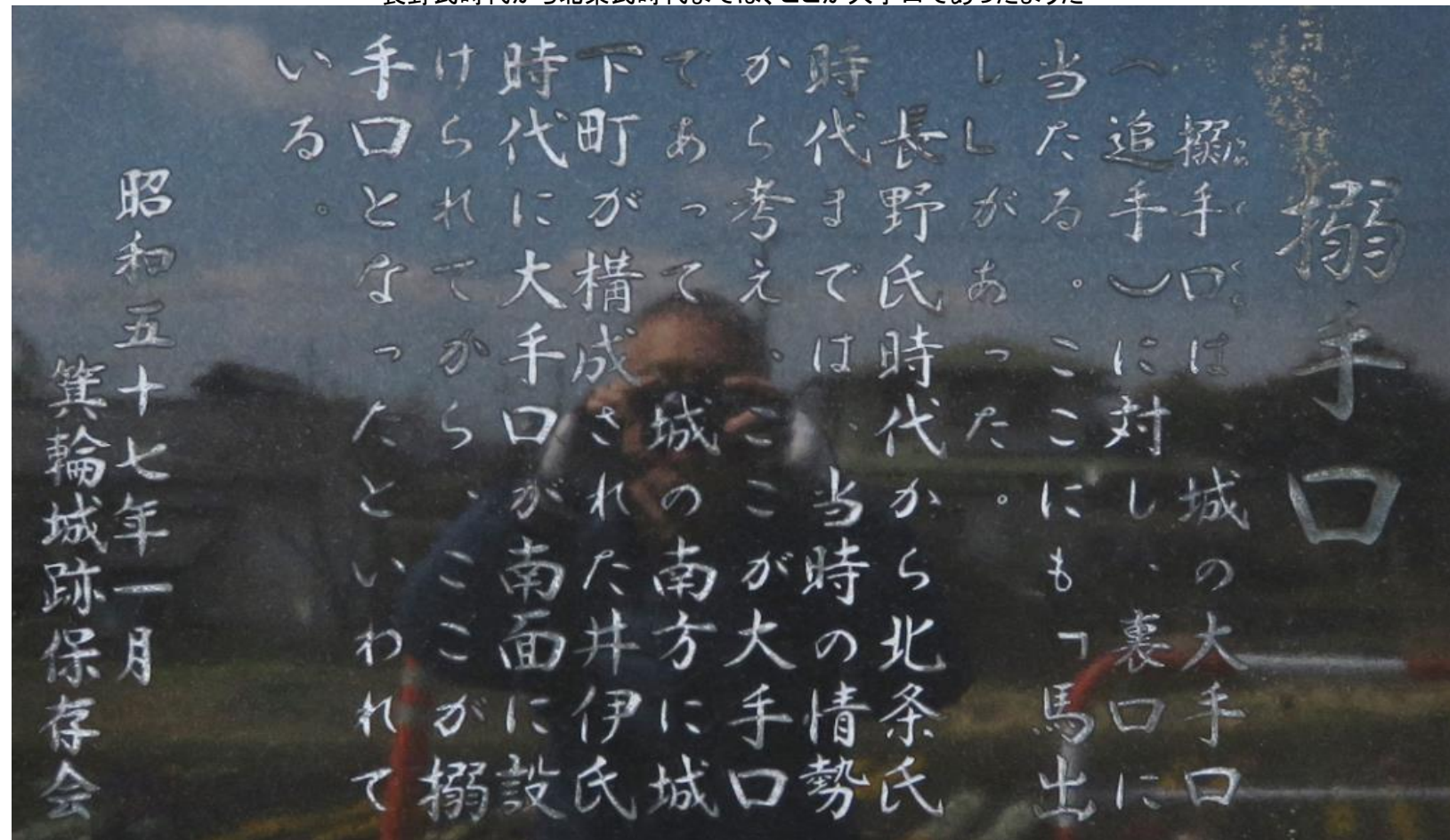
「搦手口」から見た箕輪城跡/前方に説明坂が立っている



正面のエリアは「搦手馬出」



長野氏時代から北条氏時代までは、ここが大手口であったようだ



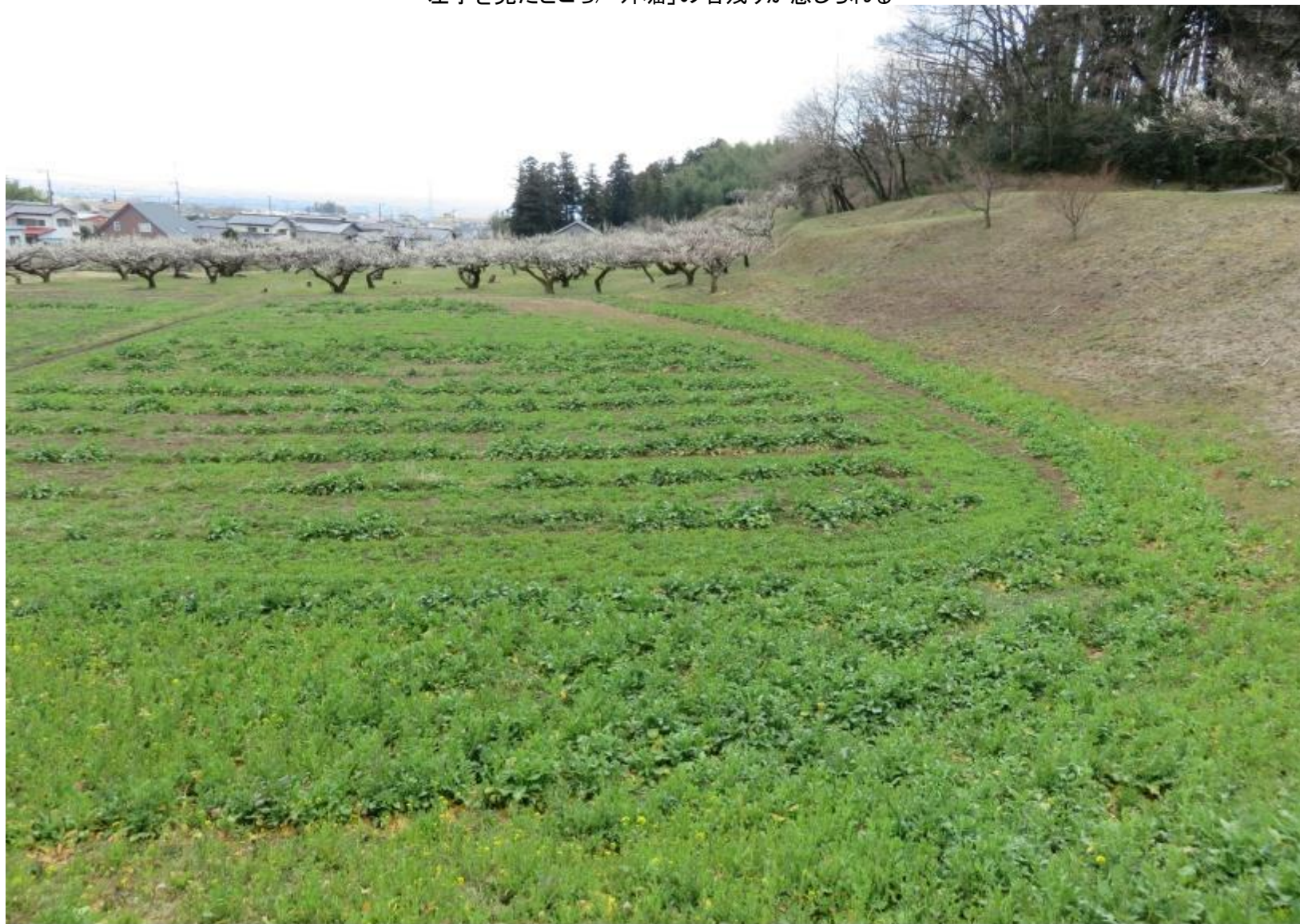
まず、「搦手口」→「二の丸」→「大堀切」→「郭馬出」→「木俣」と進んでみよう



「搦手馬出」



左手を見たところ/「外堀」の名残りが感じられる



ここを右手に登ると「二の丸」、左手に行くと「大堀切」に出る



これは左手に少し進んだ所で、東屋の屋根が見える「二の丸」の左下に「大堀切」が見えている



さて、右手に進もう/前方が「二の丸」



ここで右手を見ると、これは「本丸」東側の帯郭で「稻荷曲輪」方向に続いている/後程行ってみよう



さて、折れのある搦手からの虎口を登って「二の丸」へ進む



ここが「二の丸」/東側から西方向に見たところ



「二の丸」と記された標柱があり、説明坂も立っている



二の丸

二の丸は縦横各八十メートル程の郭で、本丸が持久防禦のための郭であるのに対し、これは出撃の拠点である。

東は搦手口に、西は白川口、大手方面へ、南は大堀切土橋から木俣方面へと四方へ出撃できるようになっている。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

二の丸

ここは出撃の拠点だったといわれています。(東は^{からめてぐち}搦手口へ、西は白川口・大手口へ、北は^{とれむ}蔵屋敷・通^{なかくるわ}仲曲輪・^{たまきやま}霊置山へ、南は^{おおほりきり}大堀切から^{きまた}木俣・^{つばさなぐち}椿名口へ)

三の丸につながる^{にしこぐち}西虎口で礎石を用いた門跡(間口2.8m、^{くちき}奥行3.2m、礎石6個)が確認されました。

門の南側には^{おおほりきり}大堀切に沿って階段状に3段に積まれた石段がありました。

これは南西側から北東方向に見たところ



振り返って「三の丸」につながる西虎口を見たところ/空堀と土橋がある



これは「二の丸」の東端の東屋の付近で、武田軍の大軍勢が押し寄せてきたという東側の搦手、明屋集落方面を見たところ





こんな感じ



さて、「二の丸」の南方向を見ると「郭馬出」とその間の「大堀切」が見える/標柱と説明坂が立っている



「一城別郭の城」という

大堀切と土橋

この大堀切によって城は南北に二つに区切られ、中央にある土橋一つで連絡されている。このように一方を失っても片方だけで戦闘を続けられる仕組みのものを「一城別郭の城」という。土橋の南には見事な郭馬出しが描えられ、出撃の氣勢を見せている。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

これは「大堀切」を「郭馬出」へ渡る土橋



左手に「大堀切」を見たところ/左手が「二の丸」、右手が「郭馬出」



右手に「大堀切」を見たところ/左手が「郭馬出」、右手が「二の丸」



ここが「郭馬出」 / 標柱と説明板が立っている



郭馬出

郭馬出しは、五十メートル×三十メートル程の郭で、回りに土手を設け外部から見えない囲いの中に兵を結集し、土手の両側から一挙に打って出る所である。このような大形の馬出しを「郭馬出し」という。

高崎城の梅木郭は、この郭馬出しを手本としたものである。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

東側から西方向を見たところ/左手は復元された「郭馬出西虎口門」



右手を見たところ/今渡って来た土橋が見える



これは振り返って東方向を見たところ/「郭馬出」を取り巻く空堀が見える



南側から「二の丸」(北方向)を見たところ



これは振り返って南方向を見たところ/「郭馬出」を取り巻く空堀の向こうに「木俣」が見える



空堀を見下ろしたところ



これが復元された「郭馬出西虎口門」



左手を見たところ/狭間も復元されている



右手を見たところ



振り返って北方向を見たところ/回りに土手が設けられているのが見て取れる/左手が「二の丸」



ここで左手に「二の丸」方向に「大堀切」と土橋を見ると堀底に石垣が見える



さて、「郭馬出西虎口門」を西側に出てみよう/「郭馬出」を取り巻く空堀を渡る土橋がある/右手が「大堀切」



左手を見たところ



右手を見たところ/「郭馬出」を取り巻く空堀が「大堀切」に落ち込んでいる



橋を渡し、「郭馬出西虎口門」を西側から東方向に見たところ/左手が「大堀切」/手前に説明坂がある



郭馬出西虎口門

THE GATE OF THE WEST ENTRANCE TO THE KAKU-UMADASHI

2002 年度の発掘調査によって、郭馬出西側の出入口（虎口）部分で井伊氏の時代（16 世紀末）の城門の柱の礎石が 8 石確認されました。

この虎口は本丸への登城ルートのうち、城南側からの 2 ルートが集約される防御上極めて重要な場所となっています。そのため、検出された箕輪城の城門の中では最大規模（幅 5.73m、奥行 3.48m）を誇り、箕輪城を象徴する城門の一つであったと想定されます。

礎石の配置等から 2 階建ての櫓門と推定されますが、近世城郭で一般的となる瓦葺きではなく、板葺きであることが、中世から近世への過渡期の特徴を示しています。

礎石がすべて残っていた好条件に加え

て、さらに各地に現存している近世初期の城門を参考にすることによって、門の建物構造を推定できました。2011 年度からの文化庁の専門委員会での審議を経て、2014 年度から 2 か年かけて、伝統的工法に基づき復元工事を行いました。

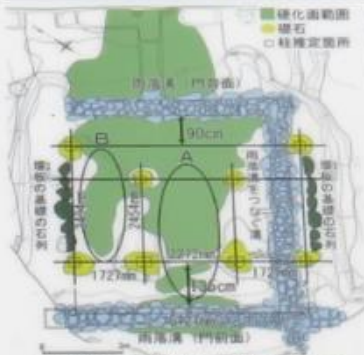
なお、この門は、関ヶ原の戦（1600 年）以前の城郭で復元された城門の中では、全国最大規模になります。

8 pillar-stones of the west gate from the Ii era (late 16th century) were discovered during the 2002 excavation. This gate was the largest within the core area and it symbolizes the castle. The perfect preservation of the pillar-stones enabled the detailed consideration of the upper structure of the gate, leading to its two-year restoration project since 2014.



前面の2階部分は張り出しており、「石落とし」が復元されている

1 発掘調査で分かったこと



発掘調査時の郭馬出西虎口門 (図面)



発掘調査時の郭馬出西虎口門 (写真)

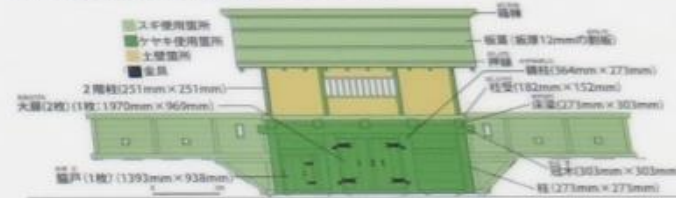
- ・礎石の配置から、1階建てになることが多い4本柱や6本柱の門ではなく、2階建ての櫓門であると推定されました。
- ・門の前面と背面で、雨落溝から礎石までの距離が違います。前面が45cm長いことから、2階部分が張り出す形になり、「石落とし」のあることが推定されました。
- ・硬く踏み締められていた箇所（上図A）が、主な通行口で、大扉が取り付けられていたと推測されました。また、上図Bの箇所も硬化しており、脇戸の位置が明らかになりました。
- ・瓦の出土がなく屋根は板葺と推定されました。



石落とし
2階の張り出した部分の床を抜いて、下方を攻撃できるようにした設備

2 復元案の作成

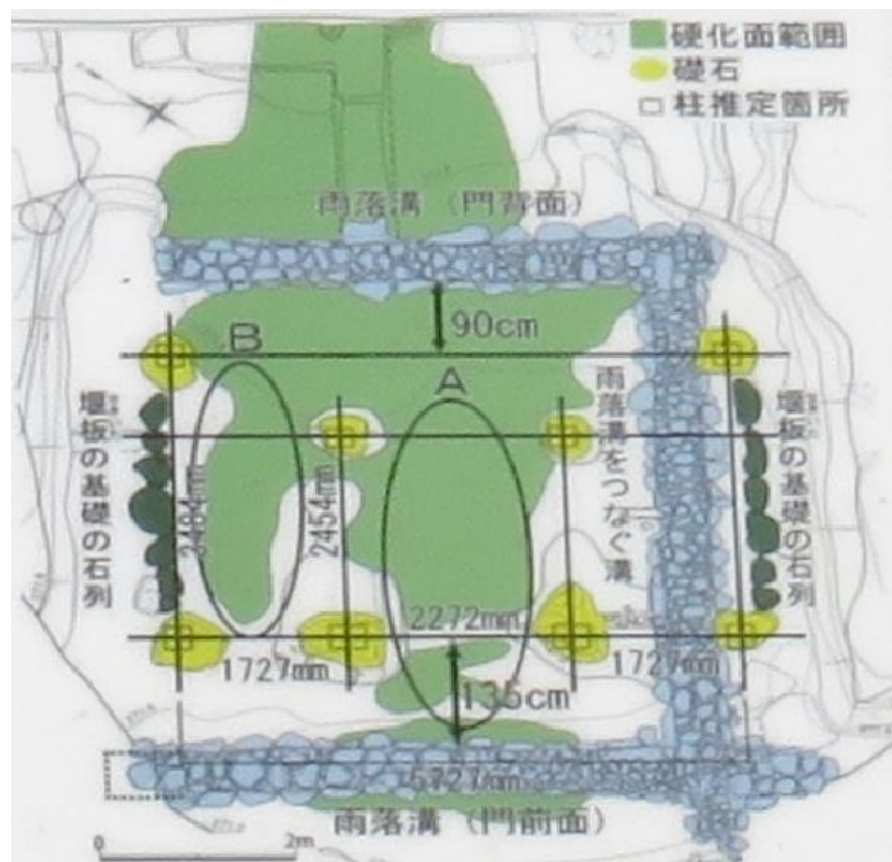
・発掘調査成果や現存する近世初期の城門を参考に復元図を作成しました。



3 復元整備の工程

・伝統的工法で復元を行うため、多くの工程がありました (2014年6月～2016年6月)。





発掘調査時の郭馬出西虎口門（図面）



発掘調査時の郭馬出西虎口門（写真）

「郭馬出」を取り巻く空堀を見たところ



このように続いている/東方向を見たところ



左手の「大堀切」に下りてみる



これが先程見えた「大堀切」の堀底の石垣/背後は土橋/左手が「二の丸」、右手が「郭馬出」/手前に説明坂がある



この石垣は復元されたもののようだ

大堀切の土橋

The earth-paved bridge of the Ohorikiri

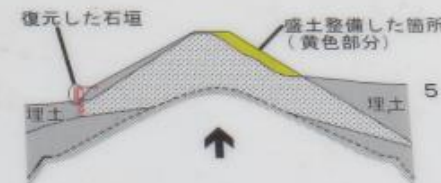
大堀切を渡る唯一の土橋です。2001・2010年度の発掘調査の結果、数時期にわたる変遷が確認され、城最終時までには土橋の南西側の裾に石垣を築くなどの改修が行われ、廃城を迎えていることが明らかになりました。

2014年度に城最終時の土橋の形状に復元しています。廃城後に削られた部分は盛土で復元して、発掘された石垣は地下に保存し、その上に、新たに石垣を復元しました。

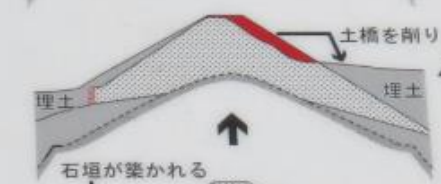
This is the sole earth-paved bridge that crossed over the Ohorikiri. It was confirmed in the 2001 and 2010 excavation that the bridge had been reconstructed original form multiple times. Stone walls at the foot of the south-east end were added on by the end of the 16th century. The bridge was restored in 2014 to its final form.



発掘調査で見つかった土橋裾の石垣



5、削られた場所を盛土し城最終時の土橋幅に復元し、石垣も復元整備する(2014年度)。



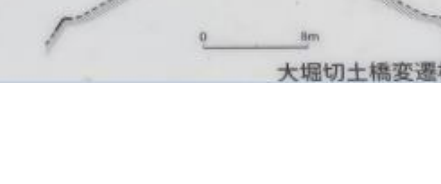
4、土橋の北東側が削られたり、周囲の斜面が崩され堀が埋まる(廃城後)。



3、新たに土橋の裾に、河原石を用いた野面積みの石垣を築き、盛土する(城最終時)。



2、次第に埋まっていく。



1、最初の土橋、もしくは橋脚台の形状(点線部推定)。

大堀切土橋変遷模式図

振り返って西方向に「大堀切」を見たところ/右手は「三の丸」



その先に行ってみる/ここから下がっている/前方は「虎韜門」のある「大堀切口」



そこで振り返って見たところ/先程の石垣が見える/左手は「三の丸」



アップで見たところ



さて、ここは「郭馬出」の南側に見えた「木俣」



標柱と説明板が立っている



木き

俣ま

通路

が二俣ふたまた

三俣みつまたの

ように五つの方向にわ

かれるのを木俣きまとい

う。この形をして

いるので木俣きまとよ

ばれる。

昭和五十九年一月

箕郷町

木俣の発掘調査

THE EXCAVATION OF THE KIMATA

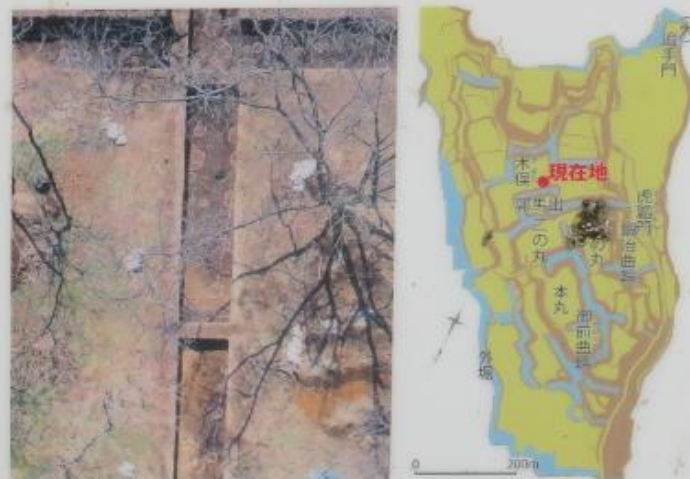
ここは木俣と呼ばれる^{くるわ}曲輪で、家臣団の屋敷地の一つと思われます。2003年度の発掘調査で以下のことが分かりました。

①木俣外周を南北方向に囲う2本の堀(右下図のA・B)は、元々さらに北西へ続いていましたが、郭馬出西虎口門が造られた頃に一部が埋められ、現在のような平場になったことが判明しました。

②築城前、木俣と郭馬出は現在より高低差がありましたが、城の改修で造成され、現在の地形になったことが分かりました。

③等間隔(180cm)で柱穴の並ぶ箇所があり、少なくとも3棟の掘立柱建物があつたことが明らかになりました。

The 2003 excavation of the Kimata area revealed that the castle had been re-constructed by partially burying or embanking the moat. Also, more than three stilt houses were discovered in this area.



確認された掘立柱建物の一部



2003年度発掘調査箇所、及び確認された堀跡と造成箇所





そこから「郭馬出」(北西方向)を見たところ



左手の西方向を見たところ/平場が広がっている



ここは「木俣」の南側で、正面の土橋を渡って右手に進むと「大手尾根口」に至る



これは「木俣」を南西側から北東方向に見たところ



その先の平場



右手(南東方向)を見ると空堀が見える



アップで見たところ



その左手(東方向)を見たところ



さて、これは「木俣」の東側で北西方向を見たところ/空堀の左手は「郭馬出」



その右手(北方向)を見たところ/平場が続いている



アップで見たところ



その平場で西方向を見たところ/空堀の左手が「木俣」、右手が「郭馬出」



空堀越しに「郭馬出」を見たところ



堀底を見下ろしたところ



これは「大堀切」を見たところ/左手が「腰馬出」、右手が「二の丸」



「大堀切」の堀底で南西方向を見たところ/左手が「腰馬出」、右手が「二の丸」



次は「本丸」→「御前曲輪」→「三の丸」→「蔵屋敷」→「通仲曲輪」→「稻荷曲輪」→「新曲輪」へと進んでみよう



「二の丸」から北西方向にある「本丸」へと進む/舗装されているが、手前は「二の丸」と「本丸」の間の空堀を渡る土橋



左手にその空堀を見たところ/左手が「二の丸」、右手が「本丸」



正面は「本丸門馬出し」



本丸門馬出しうまだし

東から南に鍵形かぎの土居のあった馬出しで、土居の北側から搦手からめてへ、南側からは二の丸へ出撃する。

本丸の南側の突き出ている部分は、この馬出しの内外を側面から守るようになっている。

昭和五十九年一月
箕郷町

「本丸門馬出し」を南側から北方向に見たところ



そこで振り返って見たところ/この下は最初に搦手から「二の丸」へ登って来た虎口



さて、これは「本丸門馬出し」の先を見たところ/ここは「本丸」への南虎口で、右手には土塁がある/左手前方が「本丸」



本丸 南虎口

みなみこぐち

本丸には3か所の虎口が確認されました。

南虎口の門は間口2.6m、
奥行2.7m以下と推定されています。

おくゆき

左手にさまざまな石碑が立っている





箕輪城

歴史

箕輪城は、明応・永正年間（一四九二―一五二一）に長野尚業（業尚）が築城し、子憲業、孫業政により強化された。

長野氏は、武田信玄、北条氏康、上杉謙信の三雄が上野国を舞台にして互いに勢力を争った戦国の世に、あつても関東管領山の内上杉家の再興を計って最後まで奮戦した武将である。

特に、長野信濃守業政は、弘治年間（一五五五―一五八八）から数回に及ぶ信玄の激しい攻撃を受けながら少しも譲らず戦いぬいたすべからず戦術と領民のために尽くした善政により、名城主として長く語り継がれている。業政の死後、子業盛（氏繁）は父の遺志を守り将兵一体となり、永禄九（一五六六）年九月二十九日、さしもの名城箕輪城も武田勢の総攻撃により、ついに落城するに至った城主業盛は、

春風はうめも桜も散りてて
名のみそ残る箕輪の山里

という辞世を残し一族主従自刃し、城を枕に悲壮な最期を送った。長野氏の在城は六十余年である。武田氏の時代は天正十一（一五八二）年、その滅亡に際して、織田信長の時代には滝川一益が一時在城したが、信長の死後は北条氏邦が城主となり、城を火攻

修した。天正十八（一五九〇）年、北条氏滅亡後徳川家康は重臣井伊直政を十二万石でここに封じて関東西北の要のとし、城下町も整備した。その後、慶長三（一五九八）年直政が城を高崎に移し、箕輪城は約一世紀にわたる歴史を閉じた。

構造

箕輪城跡の標高は二百七十メートル、面積は四十七ヘクタールに及ぶ丘城（一部平城）である。西は榛名川、南は新堀川に臨み、南は榛名沼、東と北とは水堀をめぐり、守り易く攻め難い構造になっている。

城は東西十数メートルに及ぶ大堀切で南北に二分され、堀の西側から東北の中心線に沿って深く広い空堀が掘られ、堀の両側に多くの郭が配置されている。堀の間に多くの井戸が掘られ、堀の水は完備していた。殊に、御前堀で発見された井戸の水は、今でも引用され、城の用水に用いられていた。城の用水は完備していた。殊に、御前堀で発見された井戸の水は、今でも引用され、城の用水に用いられていた。城の用水は完備していた。殊に、御前堀で発見された井戸の水は、今でも引用され、城の用水に用いられていた。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

これは「土墨の土がくずれないように作られた石垣



この石垣は、土塁の土がくずれないように作られたものです。三段ほどに積まれ堀にそって長く続いているようです。

石垣の上は「犬走り」と呼ばれる通路になっています。城の改築のとき作られたものでしょうが今年の発掘で見つかりました。

昭和五十七年三月

箕郷町教育委員会

こんな感じ



さて、「本丸」の標柱と説明板が立っている/南東側から北西方向に見たところ



「本丸門馬出し」は「曲尺馬出し」ともいうようだ

本丸

本丸は御前曲輪とともに城の中心部であり、南北約百メートル、東西約七十メートル、東側には高い土手を築いて城内が敵に見えないようにしてある。この土手が御前曲輪の東側まで続いていることにより、御前曲輪も本丸の一部であったと考えることができよう。

本丸と御前曲輪の間の空堀は東部が浅く西部が深く、西の空堀に降りる通路となっていた。空堀底は初期にはすべて交通壕であつたが、後に堀り下げられてそのはたらきを失つたらしい。南の本丸の虎口へ出入口には、前に「曲尺馬出し」がつき、本丸南部が突き出して虎口前を側面から防ぐようになってゐる。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

本丸

箕輪城には天守閣はありませんでしたが、多数の「かわらけ」や楽茶碗らくちやわんなどが発掘されていることから、城主の住む建物や軍議を開いたり酒宴やかたを催したりする館があったと推定されています。

城主の交代を契機に城の造り替えが行われたことが発掘調査で確認されました。

これが東側の高い土手(土塁)/前方の「御前曲輪」の東側まで続いている/南側から北方向を見たところ



その土塁は下部には石が積まれ、腰巻土塁となっている



これはその土塁上から東方向を見下ろしたところで、「本丸」の東下にある帯郭が見える



これは「御前曲輪」の手前の北虎口から東側の土塁を見たところ/北側から南方向を見たところ



これは土塁の上に登って北側から南方向を見たところ



これは土塁の上から東方向を見たところ



さて、ここは「本丸」の北虎口で、正面は左手の「本丸」と右手の「御前曲輪」との間の空堀/東側から西方向を見たところ/手前が浅く、前方が深くなって「本丸」西の空堀につながっている



本丸 きたこぐち 北虎口

北虎口の門は間口 5.4 m、
おくゆき 奥行 3.3 m で、本丸の 3 か所の
門の中で最大の規模のものだ
ということが確認されました。

門跡の周囲には 101 個の四
角い石塔で排水溝が造られ、石
塔には梵字や 15 世紀の年号が
刻まれているものもありました。

これほど大量に石塔を用いた
例は全国的に珍しいといわれて
います。

これは「本丸」で北側から南方向を見たところ



これは反対に南側から北方向を見たところ/東側の土塁が見える



左手で「本丸」西の空堀を見下ろしたところ/堀底に説明板が見えるがここに「本丸」から前方の「蔵屋敷」に出る橋が架かっていた



付近に石が積まれていたが...



さて、これは「本丸」から空堀越しに「御前曲輪」を見たところ/左手に屋根が見えるが、これは井戸の覆屋



前方は「御前曲輪」/東側から西方向を見たところ/手前に標柱と説明坂が立っている



御前曲輪

この郭は本質的には本丸の一部であって、落城の際、城主はここの持佛堂に入って自刃し、一族郎党みなあとを追ったと伝えられているように、箕輪城の精神的中心であった。いわば天守郭が本丸の同一平面に設けられたとも考えられる所である。

昭和二年に発見された井戸からは多数の五輪塔などの墓石が発見された。

西南隅には櫓があったと思われ、壕内に石垣が残っている。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

御前曲輪

御前曲輪は本丸の詰めにあり、城の精神的な中心であつた。西南の角に物見、戦闘指揮のための櫓があり、その下は石垣で固められている。天守閣はなかつた。

落城の際、長野業盛以下自刃した持仏堂があつたと伝えられている。井戸は昭和二年に発見されたものである。

東側から西方向を見たところで、正面に井戸の覆屋が見える



北側から南方向を見たところ



このエリアには様々な石碑があった



「箕輪城将士慰霊碑」とある



ここが井戸



こ ぜ ん く る わ
御前曲輪 井戸

昭和 2 (1927) 年 8 月 1
5 日、豪雨のため一部地
盤が沈下したのがきっか
けで古井戸が確認されま
した。

深さは 20 m で、底か
ら長野氏累代るいだいの墓石が多
数掘り出されました。



井戸の裏手(西側)に説明坂がある/前方に木柵がある



こ ぜん ぐる わ にし こ ぐち もん あと 御前曲輪西虎口門跡 The Gate of the West Entrance to the Gozen-guruwa

御前曲輪の出入口（虎口）です。御前曲輪西側の堀に架かっていた木橋を渡り、この虎口を出入りしました。

2005年の発掘調査では、ここから間口・奥行ともに3.1mの門跡が確認されました。6つの礎石が全て残り、主柱2本を4本の控柱で支える四脚門と考えられます。

門の雨落溝には156個の石塔の部材が用いられています。これらを整然と並べ格調高く整備された門です。

This is the west entrance (Koguchi) to the Gozen-guruwa. Those entering the Gozen-guruwa would cross the wooden bridge and pass through this entrance. The remains of the gate were discovered during the excavation of 2005. The gate was 3.1 meters square with six pillars, four outer pillars complementing the two main pillars. All six of the foundation stones remained. The runoff drainage channel surrounding the gate was constructed of 156 stones from disassembled pagodas.



四脚門イメージ



発掘調査時の御前曲輪西虎口



発掘調査時の御前曲輪西虎口

ここから西側の空堀を越えて前方の「通仲曲輪」に木橋が架けられていたという



これは「御前曲輪」の南西隅から西側の空堀(左手)沿いに井戸(前方に覆屋が見える)方向を見たところ/手前は土塁であろうか



西側の空堀とその向こうの「通仲曲輪」を見たところ



その堀底を見たところ



これはその土塁の上に立つ石碑/手前の両脇に立つ砲弾のようなモニュメントが意味深



さて、これは「御前曲輪」の北端から北西方向を見たところで、前方は西側から北側に廻り込んでいる「通仲曲輪」



手前の空堀を見たところ



これは「御前曲輪」からその空堀に下りて行く虎口



折れを伴いながら堀底に下っている/下に説明坂があるようだが、そこは「御前曲輪北堀」



さて、「本丸」と「御前曲輪」の間の空堀の西側から、「本丸」と「御前曲輪」を取り巻く空堀に下りてみよう



これは振り返って右手の「本丸」と左手の「御前曲輪」の間の空堀を見たところ



「本丸」と「御前曲輪」を取り巻く空堀に下りて、振り返って見たところ/右手が「本丸」、左手が「御前曲輪」



そこで左手を見たところ/この空堀は右手の「御前曲輪」を取り巻いて延びている/正面前方は「通仲曲輪」/左手は「蔵屋敷」



振り返って反対方向(南方向)を見たところ/左手が「本丸」、右手は「蔵屋敷」



右手を見ると説明坂がある



くらやしき

蔵屋敷

この上の曲輪くるわが蔵屋敷です。

蔵屋敷は備蓄穀物を保管する建物のあった場所だと考えられますが、一説によると、

いわゆる「辻馬出」つじうまだしの機能を

併せ持ち、ここから三の丸とお、通

仲曲輪なかくるわ、鍛冶曲輪かじくるわ北方へ出撃するための拠点であったと推定されています。



空堀を南方向に少し進んで見たところ/右手に説明坂が立っている/この部分の地盤が少し高くなっている



その先を見たところ/左手は「本丸」、右手はこの辺りから先が「三の丸」のエリア



その地盤の高い所を西側から東方向に見たところ



本丸堀の橋台

本丸から蔵屋敷に出
る橋の脚を立てた台で
堀はここで狭くなって
いる。
南側に石垣が昔のま
ま残っている。

昭和五十九年一月
箕郷町

この地盤の高い所が橋台ということか/前方が「本丸」



その橋台を南側から北方向に見たところ



振り返って南方向を見たところ/「本丸」を取り巻く空堀はここで左手(東方向)に折れている



東方向に折れた空堀を見たところ/前方は東方向で、正面は右手の「二の丸」から左手の「本丸」への虎口



そこで右手を見ると、右手の「三の丸」と左手の「二の丸」との間の空堀が、この空堀に接続してくる様子が見て取れる



振り返って北方向を見たところ/左手が「三の丸」、右手が「本丸」



さて、空堀のコーナーから「三の丸」へ上がって見よう/ここも虎口の一つ



ここが「三の丸」/北西側から南東方向を見たところ



「三の丸」という標柱が立っている



三の丸の発掘調査

THE EXCAVATION OF THE SANOMARU

1999・2000年の発掘調査によって三の丸では3時期の変遷が確認されました。1期(15世紀末頃～16世紀中頃、長野・武田時代頃)は屋敷地、2期(16世紀後半、北条時代頃)に釘などを作る鍛冶場として利用された後、3期(16世紀末、井伊時代頃)には南西側に厚さ2.4m以上もの盛土を行い、三の丸の石垣を築いています。

調査箇所北端部分は、虎韜門から鍛冶曲輪を経て本丸へ登るルートの中になります。ここでは両側に石垣を伴う幅5.7mの通路跡(3期)が確認されました。通路は石垣に径1m程度の大石も使われた立派なものでしたが、廃城後に石垣は大きく崩されています。

The excavation of 1999・2000 revealed that the Sannomaru had been reformed three times between the late 15th century and the late 16th century. On the north end of the excavation area was the path leading to the Honmaru. The path was 5.7 meters wide, with stone walls on both sides, and belonged to the Third period.



1999・2000年発掘調査箇所



鍛冶炉と掘立柱建物の柱穴



発掘調査時の通路跡



南東側から北西方向を見たところ



振り返ると土塁が廻っている/土塁の向こうは「大堀切」



その「大堀切」を見たところ



堀底を見たところ





左手を見ると土塁は東側で北方向に折れて「三の丸」を廻っている



これはその折れて廻った土塁を北側から南方向に見たところ/左端前方に「二の丸」への土橋が見える



これが前方の折れた部分



前方が「二の丸」への土橋/右手が土塁で左手は「二の丸」と「三の丸」との間の空堀



近づいて土橋を見たところ/土橋の向こうは「二の丸」



振り返って右手の「二の丸」と左手の「三の丸」との間の空堀を見たところ



その空堀の先を見たところ/「本丸」を取り巻く南側の空堀に接続している



こんな具合/下が「本丸」を取り巻く空堀



これはそこで振り返って左手の「二の丸」と右手の「三の丸」との間の空堀を見たところ



さて、これは「三の丸」の南西側にある虎口/こちらへ進むと「鍛冶曲輪」、「大手虎鞆門口」へと至る/左手に石垣が見える



これは「三の丸門跡」の石垣



南西側から見た「三の丸門跡」と石垣/説明板が立っている



三の丸門跡と石垣

城中の石垣で、比較
的よくのこっているの
はここである。

三の丸は二の丸の外
にある郭くわくである。

入口の三の丸門には
両側の石垣の上を渡し
た槽きざらがあり、その下が
通路であった。

昭和五十九年一月

箕郷町

さて、これは先程「本丸」の西側を取り巻く空堀から「三の丸」へ上がって来た虎口を見たところ/前方が空堀でその向こうが「本丸」



そこで左手(北西方向)を見たところ/この「三の丸」は向こうに行くに従って段々に高くなっている



こんな塩梅



一番高くなっている所から向こうが「蔵屋敷」というエリアのようだ



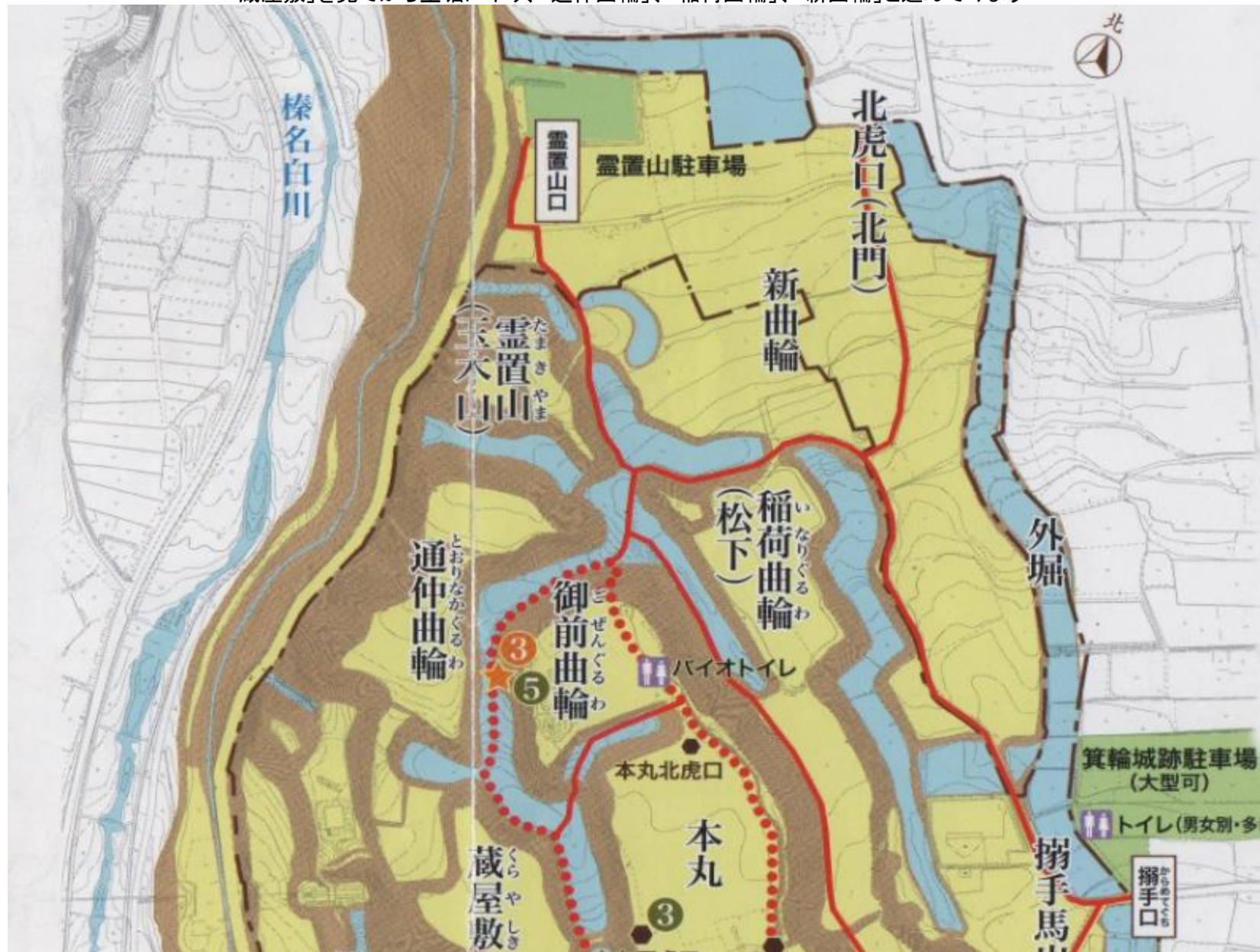
この先に分け入ってみよう



これは振り返って「三の丸」を見たところ



「蔵屋敷」を見てから空堀に下り、「通仲曲輪」、「稻荷曲輪」、「新曲輪」と進んでみよう



ここが「蔵屋敷」/北西方向を見たところ



右手に標柱が立っていた



前方が「本丸」の西側を取り巻く空堀で、その向こうが「本丸」



「蔵屋敷」を北西方向に進むと空堀が過ぎていてその向こうに新たな平場があるが、そこが「通仲曲輪」のようだ



堀底を見下ろしたところ



右手を見ると「本丸」と「御前曲輪」の間から空堀に下りてきた階段が見える



これはその空堀に下りて、上で見えた左手の「蔵屋敷」と右手の「通仲曲輪」との間の空堀を見たところ



これはその空堀に分け入って見たところ/左手が「蔵屋敷」、右手が「通仲曲輪」



さて、「本丸」、「御前曲輪」の西側を取り巻く空堀を北西方向に進んでみよう





右手前方に石垣が見えてきた/左手が「通仲曲輪」、右手が「御前曲輪」



これがその石垣/説明板に「御前曲輪 西石垣」と記されている



ごぜんくるわ

御前曲輪 西石垣

とおりなかくるわ

ごぜんくるわ

通仲曲輪・御前曲輪との
間の堀に架けられた橋の
橋脚部の土留めのために、
自然石をそのまま積み上
げた石垣（野面積み）です。

城内では比較的良好な
状態で残っています。

ここに「御前曲輪」と「通仲曲輪」との間の橋が架かっていた



これは「通仲曲輪」の平場に登って見たところ



そこから見た「御前曲輪 西石垣」



石垣の上方を見ると「御前曲輪」で見た木柵が見える



さて、更に空堀を北西方向に進もう/この先から右手に折れて行く



こんな感じで右手の「御前曲輪」を取り巻いている/左手は「通仲曲輪」



ここは「御前曲輪北堀」/右手の階段は「御前曲輪」から下りてくる虎口/左手は「通仲曲輪」/前方は「稻荷曲輪」で左手高所は櫓台



説明板が立っている/前方の開けたエリアが「新曲輪」/左手が「通仲曲輪」で、その先が「霊置山(玉木山)」/右手が「稻荷曲輪」



御前曲輪北堀

ここでは堀は五つに分かれていた。稲荷曲輪、玉木山、通仲曲輪の三つの郭がそれぞれにくちばし状にここに集まっている。三つの郭の間を進むと、新曲輪、丸馬出しに行くことができる。

昭和五十九年一月
箕郷町

さて、これは「搦手口」から「二の丸」へ進む途中にあった左手の「本丸」東側の帯郭で、ここを前方の「稲荷曲輪」方向に進もう



少し進むと前方に一段高い平場が見えてくる/左手が「本丸」、右手は東側の外堀



こんな塩梅/正面が「稻荷曲輪」



左手を見ると前方は先程の「御前曲輪北堀」/左手が「御前曲輪」、右手が「稲荷曲輪」、前方の突き当たりが「通仲曲輪」



これは「稲荷曲輪」を南東側から北西方向に見たところ



北西端に標柱と説明板が立っている



新 荷曲輪

この郭は御前曲輪より約七十メートル低く、ほぼ三角形で東側の堀は水堀であつた。西北端の稲荷社のある稲荷山は檜台で、御前曲輪の北側の堀を通る道を強力に援護している。北に虎口へ出入りし、南は帯曲輪に連なる。

昭和五十七年一月
箕輪城跡保存会

正面が稲荷山で櫓台としての機能を果たらしい



ここから登ってみよう



稲荷社がある



これは西方向の「御前曲輪」との間の帯曲輪を見たところ



これは北西方向の「新曲輪」との間の空堀を見たところ



こんな石碑もあった



「故箕輪城主長野氏三代慰霊碑」とある



これが北の虎口/前方は「新曲輪」のエリアとなる



振り返って「稲荷曲輪」を北側から南方向に見たところ



その左手を見るとこのように深い外堀となっている



その堀底を見たところ



さて、「御前曲輪北堀」から「新曲輪」へと進んでみよう



前方が「新曲輪」のエリア/左手は「霊置山(玉木山)」/右手が「稲荷曲輪」の櫓台である稲荷山



これは左手を見たところ/正面は左手の「通仲曲輪」と右手の「霊置山(玉木山)」との間の空堀



右手の「霊置山(玉木山)」を見たところ



振り返って「本丸」、「御前曲輪」と「稻荷曲輪」との間の帯曲輪を見たところ



さて、前方は「新曲輪」のエリア



そこで左手を見たところ/この前方に「丸馬出」がある



左手を見たところ/正面は右手の「稲荷曲輪」と左手の「新曲輪」との間の空堀



振り返ると「稲荷曲輪」の櫓台である稲荷山が見える



さて、右手の「稲荷曲輪」と「新曲輪」との間の空堀を進む



右手は「稲荷曲輪」の北の虎口/前方の窪んだ所は「稲荷曲輪」の東側の外堀/左手が「新曲輪」



これは少し先に進んで振り返って「新曲輪」を見たところ/前方に標柱が立っている/左手前は一寸したマウンド



これがマウンド



これが標柱/前方が「新曲輪」





これは「新曲輪」を南側から北方向に見たところ



振り返ると前方は「御前曲輪北堀」方向/左手が「稻荷曲輪」の櫓台/右手は「霊置山(玉木山)」



その左手を見たところ/向こうの「稲荷曲輪」との間の空堀が巡っている



さて、ここが「新曲輪」の西側にある「丸馬出」



標柱と説明板が立っている/標柱には「丸馬出」と記されている



丸馬出

城の東北部はゆるやかな斜面なので、水堀を二重にめぐらして備えを固めていくが、この方面の敵に對して出撃するためこの馬出しが設けられた。堀と土手は半円形で、南北西側に出入口を開く。このような堀を三日月堀と呼ぶが、丸馬出しの残っている例は案外に少ない。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

赤丸の所が「丸馬出」で三日月堀となっている/三日月堀は現在は埋まってしまっている



「丸馬出」から北方向を見たところ



西方向を見たところ



東方向を見たところ



「丸馬出」を三日月堀跡に沿って時計回りに廻ってみる



こんな感じ



三日月堀は埋まってしまっているが、雰囲気は感じられる



そこから「丸馬出」を見たところ



さて、これは「丸馬出」の背後の「霊置山(玉木山)」との間の空堀を見たところ



堀底を見たところ



堀底に下りて東側から西方向を見たところ/左手が「霊置山(玉木山)」



さて、これは「新曲輪」の東側で、南東方向を見たところ/右手が「稲荷曲輪」/左手には「外堀」が廻っていた





右手の「稲荷曲輪」とその間の空堀を見たところ



空堀を南東方向に見たところ



これは少し南東方向に進んで、空堀越しに「本丸」とその手前の帯曲輪を見たところ



これは空堀に下りて北西方向を見たところ/左手が「本丸」とその手前の帯曲輪



振り返って南東方向を見たところ/右手が「本丸」とその手前の帯曲輪



次に「大手虎韜門口」→「鍛冶曲輪」→「三の丸の石垣」と進んでみよう



右手が「大手虎韜門口」/左手には「白川口埋門」と記された標柱と説明坂が立っている



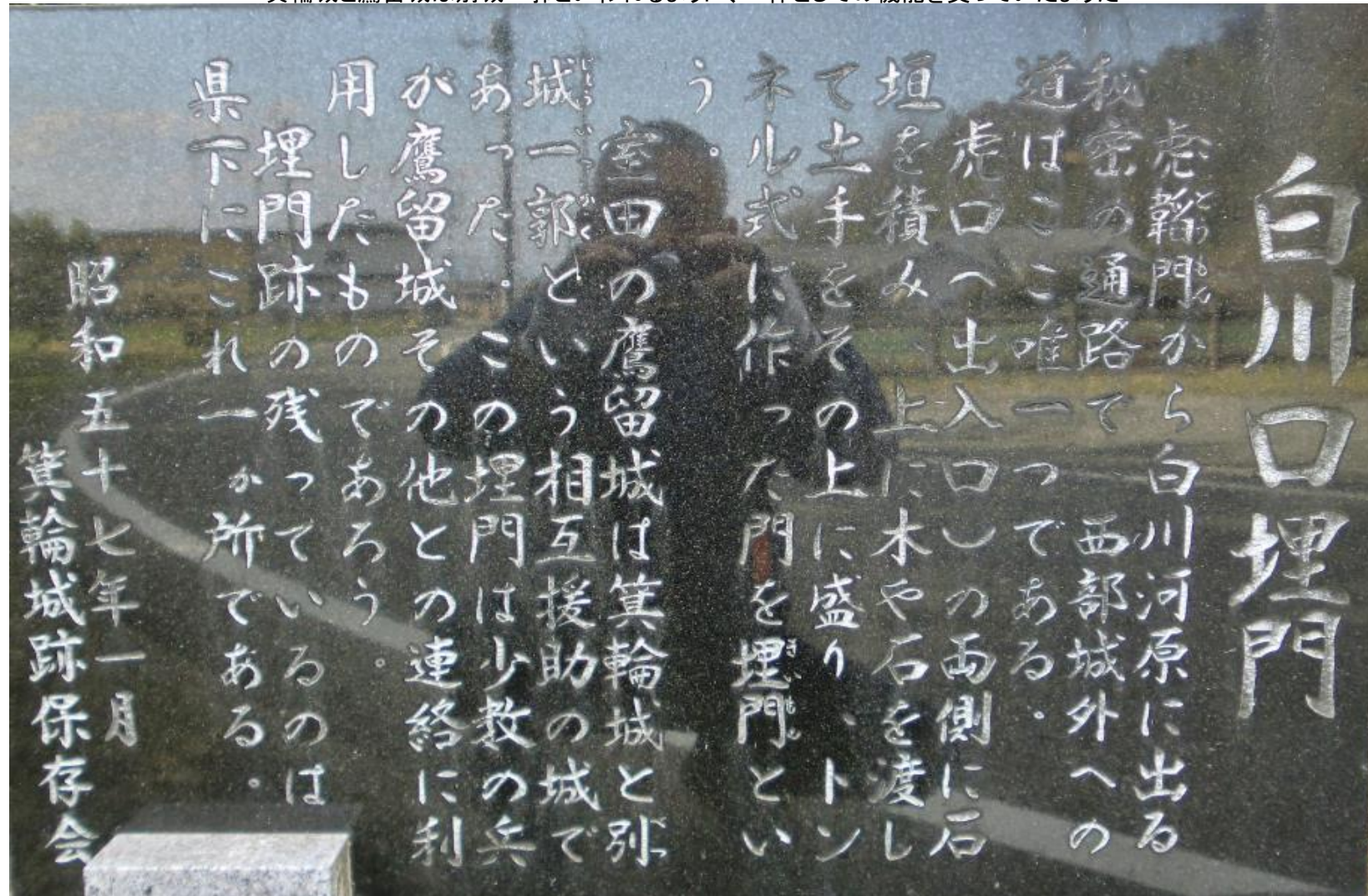
これは右手の「大手虎韜門口」の看板



これが左手の「白川口埋門」と記された標柱と説明板/正面が「埋門」で白川河原へ下りる虎口となっている



箕輪城と鷹留城は別城一郭といわれるように、一体としての機能を負っていたようだ



これが虎口両側の石積み(石垣)の遺構



左手の石積み



下から見上げたところ



これは白川の対岸から箕輪城跡を見たところ



さて、これが「虎韜門」の跡/標柱と説明坂が立っている



虎 韜 門

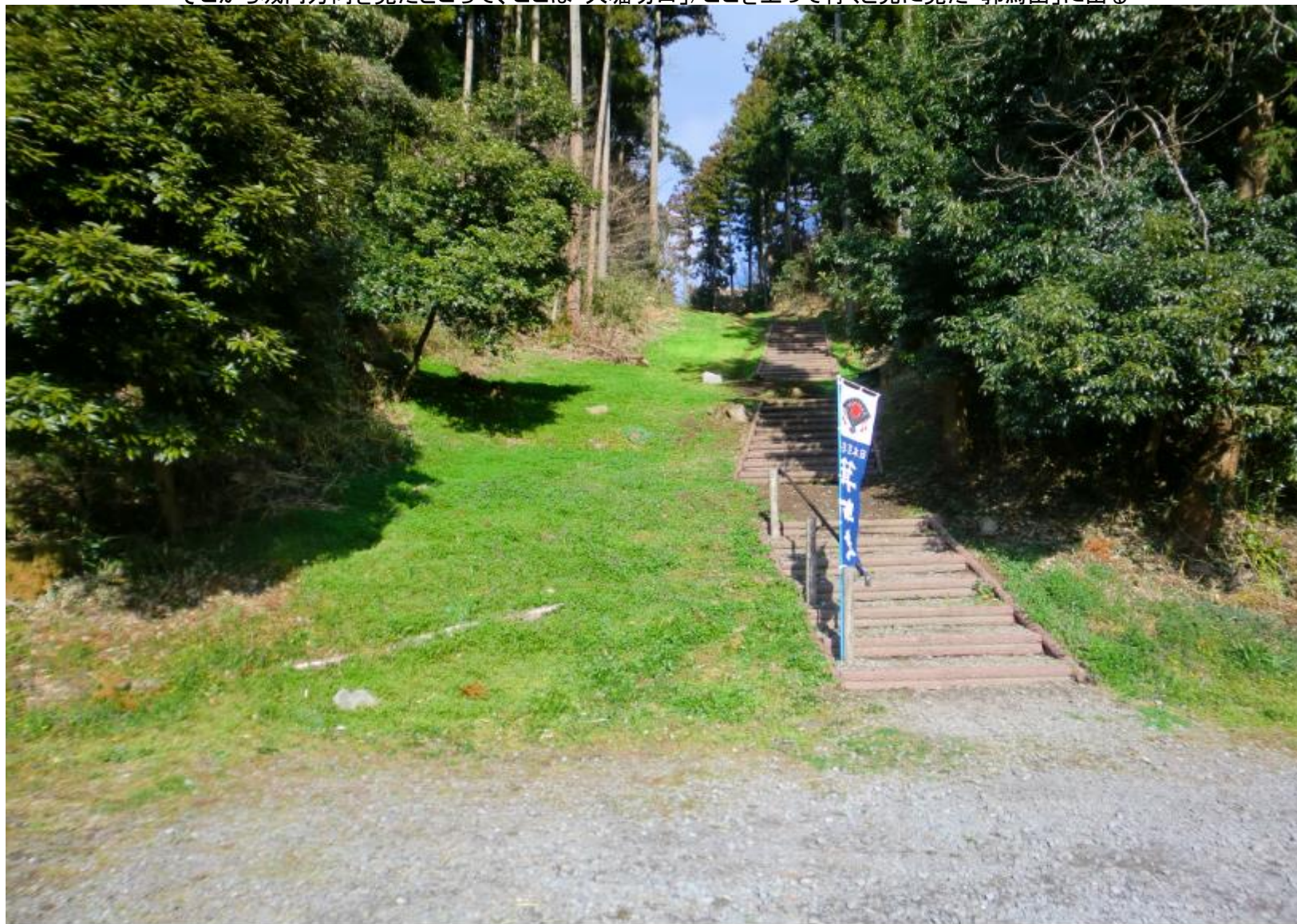
虎韜とは、中国の昔
の兵書「六韜三略」の
虎韜へ虎の巻である。
この門をこう名づけた
のは井伊直政であらう。
ここは、大堀切の西下
を守る要点である。
古図によれば、この
南に馬出しがあった。

昭和五十九年一月
箕郷町

こんな感じ



そこから城内方向を見たところで、ここは「大堀切口」/ここを上って行くと先に見た「郭馬出」に出る



「大堀切」を少し進んでみる/左手は「三の丸」



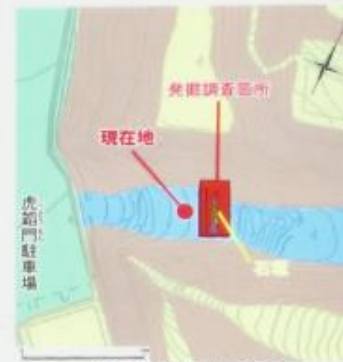
この「大堀切」の堀底には直交する石積み(石垣)があったという

おお ほり きり 大堀切の石垣 The Stone Wall of the Ohorikiri

大堀切は城を南北に二分する役割があり、現在、幅 30 m、深さ 9 m の規模を誇っています。2001 年の発掘調査では堀底付近で大堀切に直交する石垣が検出されました。石垣の規模は上幅 3.9 m、下幅 2.9m 程度、高さ 2.5m 以上で、現地表面から約 5 m 下が石垣の上端になることから、本来の大堀切は現在よりも 7.5m 以上深かったことになります。

この石垣は敵の侵入に備える防御壁であり、併せて土砂の流出を押さえる砂防ダム の役割を果たしたとも考えられます。なお、電気探査の結果、この堀には他にも同様の石垣が数箇所に築かれていると推測されます。

The Ohorikiri is a large moat that separates the castle into two sections. It is presently 30 meters wide and 9 meters deep. The 2001 excavation revealed that the base of the moat was 7.5 meters deeper than its present depth, and near the bottom was a stone wall built at right angles to the moat.



2001 年発掘調査箇所



堀底付近の石垣 (北から)



調査区全景 (北から)

さて、「大手虎韜門口」から「鍛冶曲輪」方向へと進んでみよう



説明板が立っている



鍛冶曲輪の石垣かじくるわ いしがき

鍛冶場のあった所で
中世の大きな城にはよ
く見られ、ここで武具
などを作製、修理した。
このような石垣は、
城内各所に見られる。

昭和五十九年一月
箕郷町

こんな具合



前方に標柱が立っている





ここが「鍛冶曲輪」



反対側から見たところ



さて、ここから「三の丸」へと登って行こう



左右に折れながら登って行く



振り返って見たところ



登る切ると平場が見えてくる



正面に石積みが見える



右手を見ると説明板が立っている



大堀切

この大堀切は東西に
走り城を北と南の二つ
に分けている。
こういう大規模な堀
を鋤くのもここで築い
た人々の労苦がしのば
れる。

昭和五十九年一月

箕郷町

「大堀切」を見下ろしたところ



さて、これが石積み(石垣)/説明坂がある



この石垣の先には既に見た「三の丸門跡」の石垣がある

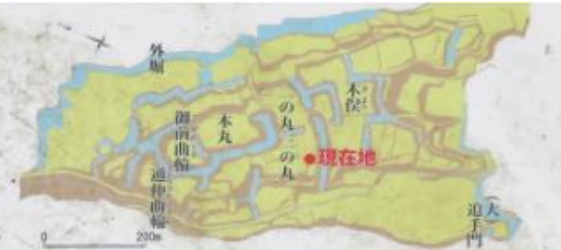
三の丸の石垣

The Stone Wall at the Sannomaru

追手門から本丸へ至る大手ルート^いを固めている井伊時代に使われていた石垣です。1999年の発掘調査で基部が1 m埋まっていることが確認され、当時の高さは4.1 mにも及んだことが明らかになりました。城内では最も高く、関ヶ原の戦い（1600年）以前の関東地方の城郭でも有数の規模です。河原石を用いた野面積みで、一人では運べない大きめの石を用いています。

この石垣の背後（下層）では、最高1.3 mほどの高さで、人頭大の河原石を階段状に積んだ古い石垣が見つかっています。同様の特徴を持つ石垣は、埼玉県寄居町の鉢形城跡^{はちがたじょうあと}でも確認されました。当時、鉢形の城主は北条氏邦^{ほうじょううじくに}で、箕輪の城主も兼任しており、技術が共有されたためと考えられます。

This stone wall is one of many walls which protected the main route leading from the front gate of the castle to the Honmaru. In the excavation of 1999, it was discovered that 1 meter of the base of the wall had been buried and that its original height had been 4.1 meters. It is the highest stone wall of the entire castle.



下層で確認された石垣



発掘調査時の三の丸の石垣

右手前は大きな石で、左前方は小さな石で積まれているようだ



反対側から見たところ



最後に「追手門」→「丸戸張」→「大手尾根口」→「観音様口」→「木俣」→「椿名口」へと進んでみよう



ここが「追手門」/標柱と説明坂が立っている





大手口

ここは井伊氏時代の大手口へ迄乎である。門の前には、戸張しといふ郭馬出しが構えられて、その外を広小路といつた。

大手口は間口約十一メートル、奥行四メートルの櫓門で、後に高崎に移されて櫓木門となり、柱に「文禄四年未正法作」と刻んであったという。文禄四年は一五九五年である。

昭和五十七年一月

箕輪城跡保存会

これはその左手で、「丸戸張」を見上げたところ/正面の擁壁の上が「丸戸張」



これは「大手口」を少し進んだ所/ここを進むと「大手尾根口」方向へと至る



そこで左手を見ると、正面のエリアが「丸戸張」



ここが「丸戸張」/標柱が立っている



こんな感じ



さて、「大手尾根口」方向へ進もう



ここから入って行く



ここが「大手尾根口」



ここをまっすぐ進むと「郭馬出西虎口門」方面に至る/右手に行くと観音様口方面に至る



まっすぐ進むと堀切のようなところを土橋で渡って行く



前方に説明坂が立っている



大手尾根筋おおておすじ

この道を大手尾根筋と呼んだのは故福島武雄氏である。

下に見えるのは腰曲輪で、南七十メートルに木戸跡があり、北二十メートルにある堀は本丸辺の堀よりはるかに浅い。

昭和五十九年一月
箕郷町

そして右手に折れると左手が空堀となっており、この突き当たりを左手に行くと「郭馬出西虎口門」に至る



さて、ここは「観音様口」の手前にある法峯寺の参道



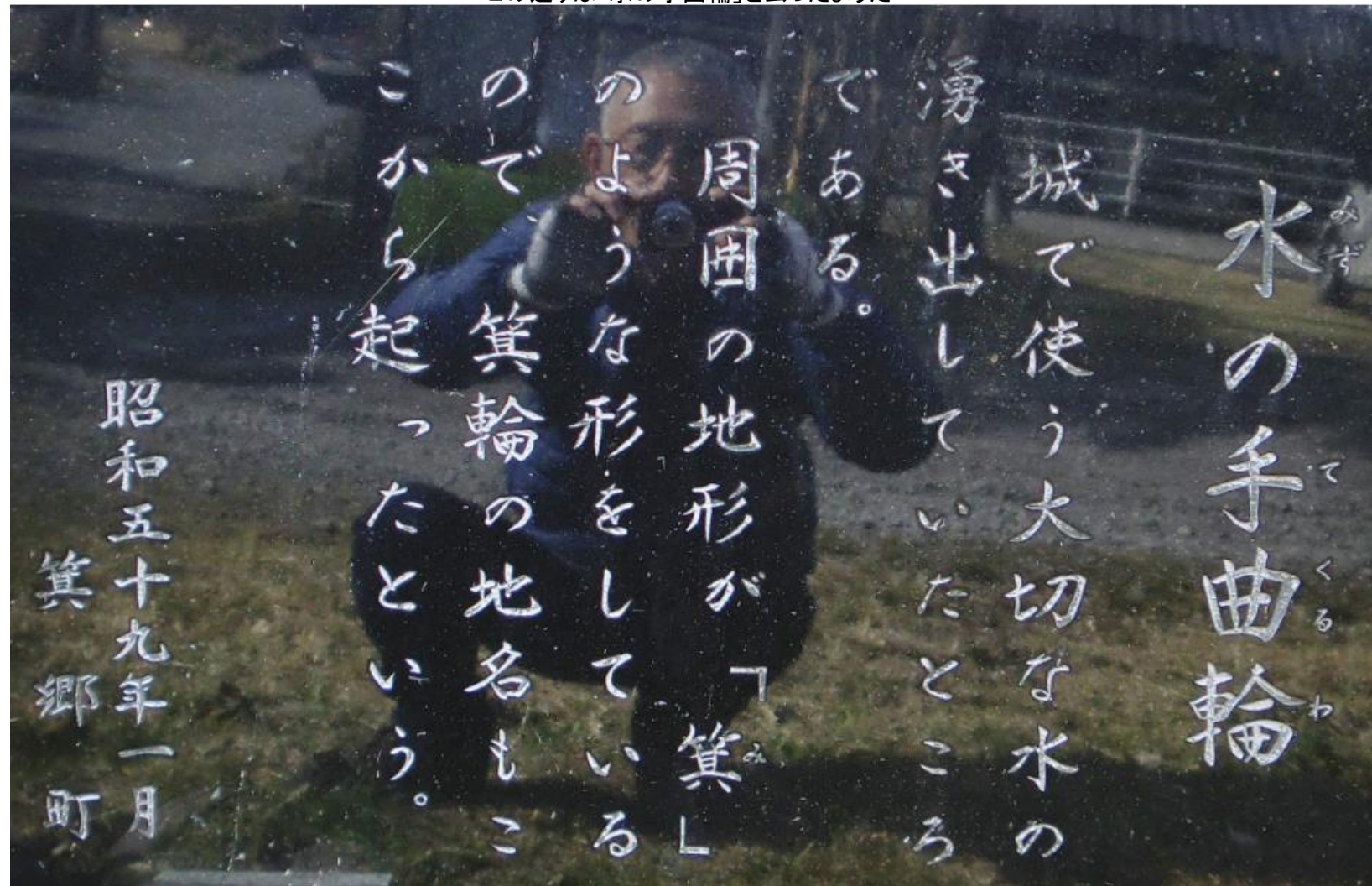
さまざまな石造物が並ぶ



説明坂が立っている



この辺りは「水の手曲輪」と云ったようだ



法峯寺の山門/この背後が箕輪城跡



さて、左手から「観音様口」を進もう



「観音様口」に建つ観音堂



こちらから進む



少し進んだところで、まっすぐ行くと「郭馬出西虎口門」方面、右手に行くと「椿名口」に至る



まっすぐ進んだところで、左手は「大手尾根口」方面/更にまっすぐ進もう



途中から「郭馬出西虎口門」方面ではなく、右手に折れて進む



突き当たりで左手を見ると空堀があり、その左手は既に見た「木俣」/正面やや左前方に「郭馬出西虎口門」の屋根が見える



空堀の堀底に下りて北西方向を見たところ



さて、右手に折れて「椿名口」へと進もう



少し進んで振り返って北西方向を見たところ



少しずつ下って行く/左手サイドは平場となっている



その左手の平場を見たところ



平場に立って北西方向を見たところ



更に下って行く



その先の左手もこんな平場となっている/ここは空堀であったようだ



右下を見ると先程の法峯寺が見える



大分下って来た



説明板が立っていた

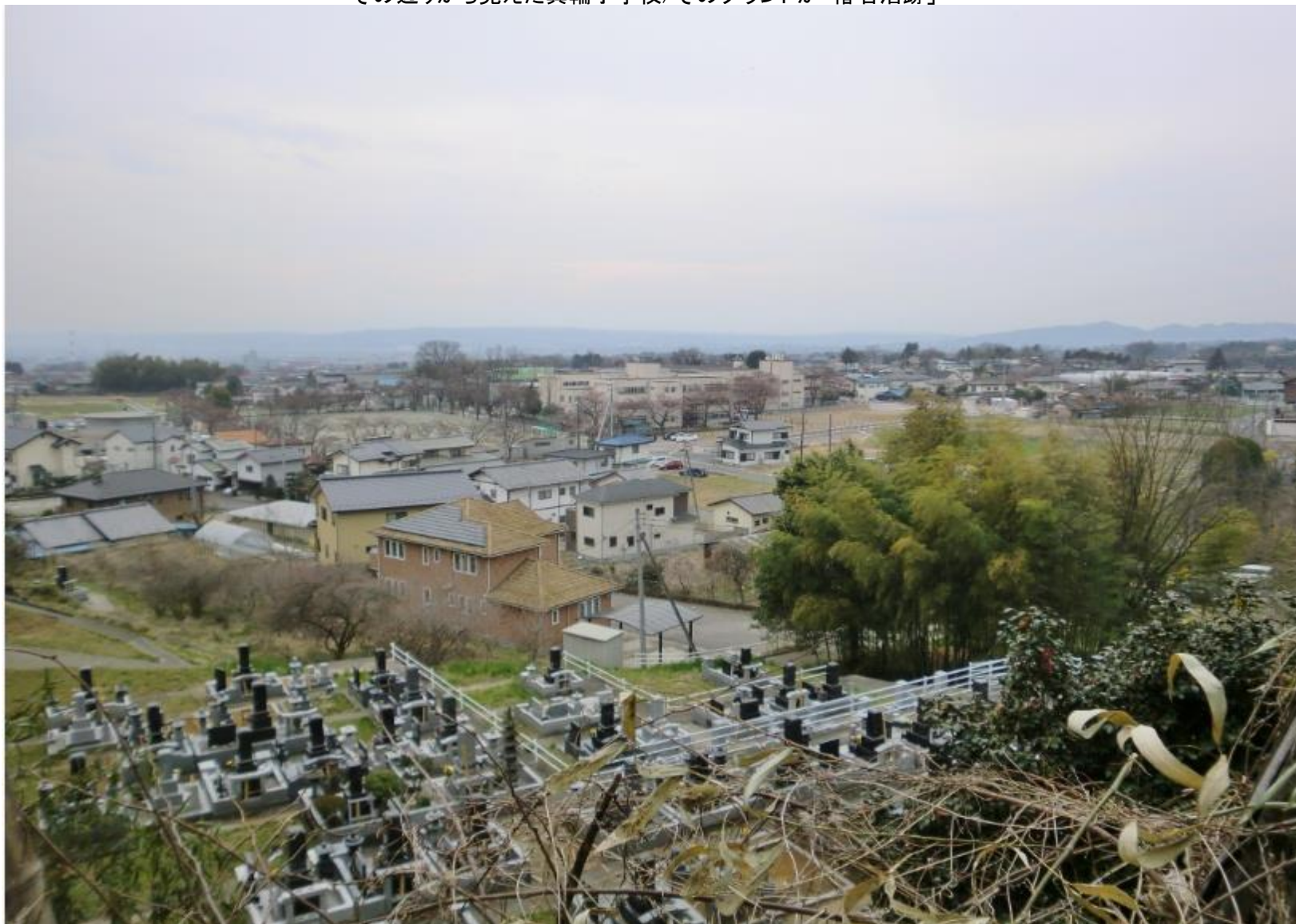


椿つばきの路みち

ここは椿つばき名尾根なのおねに
くられた堀切である。
南に見える椿名沼跡
（今の小学校のグラウンド）
椿山の砦とりでなどは、
このあたりに茂る椿の
木による名であろ^うか。

昭和五十九年一月
箕郷町

その辺りから見た箕輪小学校/そのグラウンドが「椿名沼跡」



前方に道路が見えてきた



その道路に出て振り返って見たところ/左手の道路を下って行くと「観音口」に至る



「椿名口」へは道路をこちらの方へ進む





するとこんな所へ行き着く/前方が大きな道路のようだ



その道路に出て振り返って見たところ



標識に「椿名口入口」と記されている



さて、この道路を南東方向へ下って行く/巣子ち行くと道路左手の上が「椿山の砦」のエリア



もう少し進んで正面の坂を上って行く



上がり切ると一帯が墓地となっているが、この辺りが「椿山の砦」跡ということか



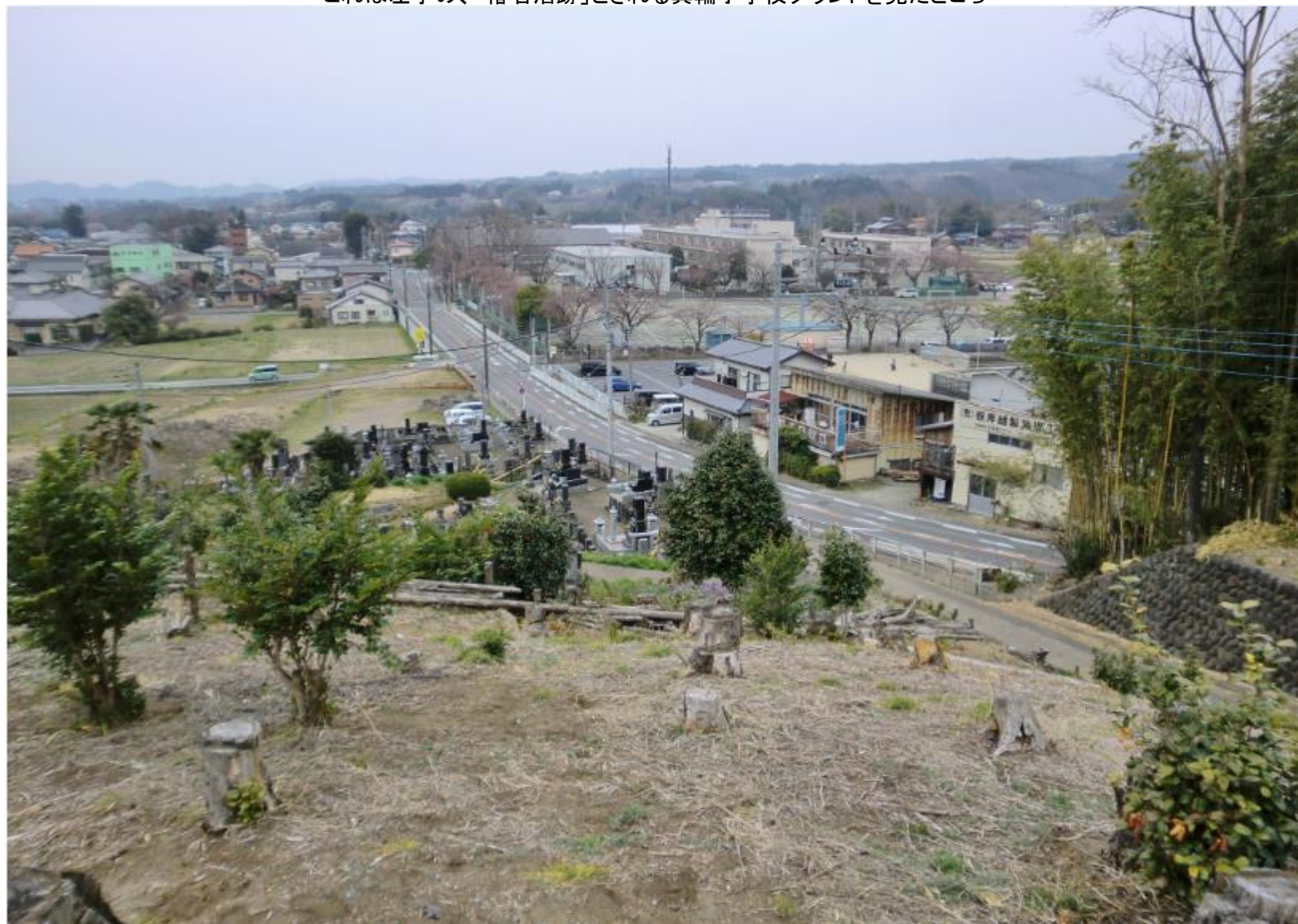
振り返って見たところ



これはそこから北西方向に箕輪城跡の「椿名口」方向を見たところ



これは左手の、「椿名沼跡」とされる箕輪小学校グラウンドを見たところ



これは「椿山の砦」を下って西方向に箕輪城跡を見たところ



これは「椿名沼跡」とされる箕輪小学校グランドから箕輪城跡を見たところ



箕輪小学校グランド脇のこの道が「椿名口」のある法峯寺の参道



各所に残る遺構

箕輪城は城主が代わるなどを契機にして、幾度も造り替えがなされています。そのため、現在の箕輪城は長野氏時代の城とはかなり異なっていて、最後の井伊直政在城当時の姿に最も近いと考えられます。



堀

本丸を巡る幅三〇、四〇m、深さ一〇mの空堀や、城の中央部を南北に分断する役割がある大型切など、同時代の城としては全国的な規模を誇る堀が城内各所に残っています。一部の堀では部分的な試掘調査を行っています。六m以上埋まっていることがわかり、石垣なども発見されています。当時の堀は現況のおよそ二倍程度の深さで、一部では石垣などが使われていたようです。



① 本丸南堀

石垣

大手門から、本丸へルートにあたる虎ノ丸、三の丸・二の丸などにも石垣があります。その他、郭馬出・御前曲輪も石垣があります。発掘調査をすすめて、埋まっていた石垣が発見され、かなりの場所では石垣が使われていたことがわかりました。これらの石垣は野面積みと呼ばれ、河原石を用いたもので、一人では運ぶことができません。箕輪城内の石垣は、城のすぐ西を流れる埴名川から、主に城の最終時期と考えられる石垣はさらにその前の時代まで遡ります。

へ上がっていく
「・殿治曲輪」
は石垣が残って
西側の堀などに
と、多くの場
で、城の主要部
を加工をしない
べない径一田ほ
では石が取れな
口川から運び上
は、発掘調査な
れますが、一部
ります。



① 虎姫門の石垣



② 殿治曲輪の石垣



③ 御前曲輪内堀の石垣

見学コース案内

城跡には7か所の入口があり、いずれも中央の見学コースに接続しています。

◎各人11から中央コースまでの距離と所要時間、見所

大手虎姫門口	270m	10分	三の丸など城内で最も石垣が集中しているルートです。
大手尾根口	470m	15分	長野氏時代の大手ルートといわれています。
観音橋口	400m	13分	観音様の石段を登ります。春の桜が見事です。
椿名口	620m	17分	なだらかな尾根道で、一部に櫓があります。
櫓手口	200m	5分	城の主要部へのアプローチが最も容易なルートです。
雲雀山口	200m	4分	櫓手口と同様に城の主要部へのアクセスのよいルートです。
大堀切口	220m	7分	虎姫門駐車場から馬出西出口へ一気に向かえます。

◎中央コースの距離と所要時間、見所

中央コース	800m	20分	御前曲輪・本丸・二の丸と、これらの曲輪周囲の巨大な堀が見られます。
-------	------	-----	-----------------------------------



箕輪城の発掘調査

平成一〇年度から史跡整備に向けた発掘調査を進めた結果について主なものを次に記します。

① 三の丸の石垣

城内では最も高い四・二mの石垣を確認しました。関東地方の城郭は江戸時代に入ると、江戸城など一部の城郭では四mを超えるような高石垣が用いられていますが、それ以前では豊臣秀吉が築いた石垣山城（神奈川県小田原市）など限られた城でしか確認されていません。箕輪城が北関東の要の城にふさわしい形で改修されたことがこの石垣からうかがえます。

② 三の丸の下層の石垣

①の下層で確認された古い時期の石垣は、平行して積まれた石垣です。最高一・七m、一人で運べるくらいの石を用いる。石垣と比較すると大きな相違がある特徴を持つ石垣が北条氏邦が城主を兼城跡（埼玉県寄居町）でも見つかった。



箕輪城の歴史

西暦一五〇〇年前後に長野氏が築城しました。後の系図によると、業尚、業政、業盛の四代が箕輪城を本拠にしていたと考えられています。ただし、近年の研究では、方業、業正（業政）氏系（業盛）と関連したことが指摘されています。また、業尚や業政は鹿沼城（高崎市下室田町）を築城した長野氏の一族ではないかという指摘もなされています。

長野氏は武田氏の西上野侵攻に際して、この箕輪城

を本拠にして最後まで抵抗しましたが、六六に陥攻不降だった箕輪城もついにとられました。

その後は、武田氏、織田氏、北条氏、徳主が代わりましたが、その度に各人名の置かれています。特に最後の城主井伊直の家臣の中では最大石高の二万石で、その八年後の慶長三年（一五九八）、井高崎に移し、箕輪城は廃城になりました。井高崎町史には、この頃、井高崎に上り

年代	箕輪城城主	主な出来事
1454年 (享徳3) 1482年 (文明14)		享徳の乱で関東地方が戦国時代へ。
1500年頃		この頃、箕輪城築城。
1524年 (大永4)	(長野業政など)	箕輪の長野方業が総社城主長尾景景を攻める。この年までに箕輪城は築城されている。
1552年 (天文21)		関東管領上杉憲政、北条氏に攻められ、平井城（藤岡市）を追われる。
1560年 (永禄3)		桶狭間の戦い（織田信長、今川義元を破る。）
1561年 (永禄4)		この頃から、武田信玄が西上野に出兵する。
1566年 (永禄9)		武田信玄、箕輪城を落とす。
1573年 (天正元)	(内藤昌秀など)	室町幕府滅亡（信長、足利義昭を追放する。）
1575年 (天正3)	武田	長篠の戦い（信長・徳川家康が、武田勝頼を破る。）
1582年 (天正10)	織田	信長重臣の滝川一益が箕輪に入城するが、間もなく北条氏邦が城主に。
	(北条氏邦など)	信長、武田氏を滅ぼす。本願寺の変（信長死す。）
1585年 (天正13)		豊臣秀吉、四国平定。秀吉、関白に。家康家臣中最高石高の12万石で。

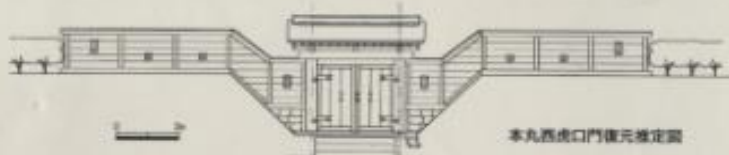
垣で、大堀切に三田ほどの高さなど、城最終時にあります。同様な任していた跡形です。



③ 本丸西虎口

蔵屋敷から本丸に架かっていたと推測される木橋を渡った所で、幅二・九四m、奥行一・五四mの門跡を確認しました。

礎石は全部で四石あり、その配置から一階建ての高麗門と推測されます。本丸に入る三か所の虎口のうち、唯一木橋を渡ってはいく虎口で、開口（扉部分の幅）については本丸の中で最大です。全国に現存する城門や城絵図を分析し、下図のように考証されました。今後、この門を復元していく計画になっています。



④ 郭馬出西虎口

大堀切に唯一ある土橋を、二の丸から南に渡ると五二四・二七mの曲輪があります。南側に攻撃する拠点の役割があり、郭馬出と呼ばれています。平成一四年度に発掘調査し、西側の虎口で幅五・七三m、奥行二・四八mの門跡を確認しました。礎石の配置から二階建ての櫓門と推測され、関ヶ原の戦い（一六〇〇年）以前では、確認されている中で関東地方最大規模の門跡になります。門の柱を据える礎石は全部で八石あり、屋根から落ちる雨水を受けるための排水用の溝もあり、極めて良好に残っていました。本丸西虎口と同様に考証され、平成二八年一月には復元工事が完成しました。



⑤ 御前曲輪西虎口

通仲曲輪から御前曲輪へ渡った場所の虎口部分で門跡を確認しました。礎石は全部で六石あり、その配置から主柱一本を前後四本の控柱で支える四脚門と推測されます。幅二・一m、奥行三・一mの規模になります。門の屋根から落ちる雨水を受けるための溝には一五六個の石塔の部材が用いられています。



⑥ 大堀切土橋付近の石垣

箕輪城を南北に分断する堀で、堀の南側が落とされても城の主要部の北側を守ることができると役割を果たしています。この堀を唯一渡ることができる土橋の基底部では土留めの役割を果たす石垣を確認しました。



⑦ 大堀切西端付近の石垣

堀に直交し砂防ダムのような役割などがある石垣が堀底付近で確認されました。この調査部分では七・五m以上堀が埋まっているのがわかっています。



1590年
(天正18)

1598年
(慶長3)

井伊直政が箕輪城主に。
秀吉、北条氏を滅ぼし、天下統一。
直政、城を高崎に移し、箕輪城は廃城に。秀吉死去。

参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/004gunma/098minowa/minowa.html>

<http://yogoazusa.my.coocan.jp/minowams.htm>

<http://umoretakajo.jp/Shiro/Kantou/Gunma/Minowa/>

<http://www9.wind.ne.jp/fujin/gunma/kokudo/minowa/minowa.htm>

<http://www.uraken.net/museum/castle/shiro122.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/kouzuke/minowa-jyo/>

http://castle.slowstandard.com/08kanto/15gunma/post_38.html

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-357.html>

https://jyo-sai.com/castle-report/hirajiro-hirayamajiro-cat/minowa_castle/

<http://www.geocities.jp/qbpbd900/minowa.html>

